

- TMT計画についてはパンフレット、ホームページを参照ください。
→ tmt.nao.ac.jp (研究者向けウェブページもこちらから)
 - TMTニューズレターを2-3ヶ月ごとに発行しています。ご希望の方はご連絡ください (ホームページでも閲覧可)。
 - 詳しくは本年会の観測機器セッションでの報告 (N204a,N205a,N206a) も参照してください。
- **建設地 (ハワイ) をめぐる動き**
 - 現地工事の再開にむけ、建設に反対するグループの幹部を含む地元関係者との対話を重ねている。
 - 地元での信頼構築を進めるため、TIO本部のヒロへの段階的移転の方針を評議員会で決定し、詳細を検討している。
 - **米国NSFの参加に向けた動き**
 - 米国では北半球のTMTと南半球のGMT合同のUS Extremely Large Telescope Program が立案され、2020年5月、TIOはNSFに設計段階提案を提出した。2021年に基本設計審査が行われる。
 - 2021年(6月頃) のDecadal Surveyの結果で地上大型計画として一位を獲得し、米国の天文学コミュニティにおける強い支持が明確に示されることが前提。
 - **TMT運用の検討**
 - US-ELTプログラムの一環として、NOIRLabがユーザサービス等運用計画を検討中。国立天文台およびTMT科学諮問委員とAURA/NOIRLabとの打合せを2021年2月に実施。3月にはTIOとも会合をもった。
 - TMT科学諮問委員会のもとにワーキンググループを設置してもらい、日本のユーザに必要な機能や協力の枠組みについて議論を開始した。
 - **進捗状況**：各国で担当個所の設計・製作が進んでいる。日本の担当個所については以下のとおり：
 - 望遠鏡本体構造の製造図面作成を進め、方位角、仰角構造の主要3部位についての製造前審査を実施、サブシステムとのインターフェースの確定などを進めている。
 - 主鏡分割鏡の量産は停止しているが、外形加工や支持機構搭載の量産工程に必要な開発を行っている。
 - 第一期装置のIRISは2021年に予定されている詳細設計審査にむけた設計・開発を進めている。概念設計段階にあるWFOSについてはカメラ系の設計等を担当している。新たに第一期装置として概念設計が行われているMODHISについては寺田宏准教授がプロマネを務めて計画をリードしている。